

# 働くママの

## 処世術

田畑則子

### 妊娠期間

今回は子育ての前段階、妊娠から考えてみます。働く女性にとっては大ごと。まず「仕事をどうしよう」という課題が頭をよぎります。続いて浮上するのが、職場の誰に伝えるかということ。同僚、上司、取引先など、一般的には自分が休むことで迷惑を掛けてしまいそうな人から順に報告するようです。

予定していた出張を代わってもらわなくては。大事なプロジェクトの期間中に出産予定日が。つわりがひどく電車を途中下車、約束の時間に遅れてしまう。妊娠中に体調の異変は付き物で、関係者に迷惑を掛けてしまうことがあります。そんなとき、あらかじめ妊娠を打ち明けておけば周りの配慮してくれます。わたしの場合、妊娠を体感で知らない男性の方が、かえって体調に気を使ってくれると感

### 出産経験を仕事の力に

しました。ただ、気遣いも程度次第。「大丈夫」といくら伝えても、万が一を心配してか、負担の少ない仕事しか任せてもらえなくなります。すると、「もっと仕事ができるのに」と焦り、果ては「必要とされていないのかも」といった不安も生じます。マタニティーブルー特有のマイナス思考に陥ってしまうのです。

産休を取って職場復帰したケースでは「要職から外された」「給料が減った」など不平を言う人がいます。でも産休期間中には、間違いなく誰かが代わりに仕事をしてくれていました。嘆く前に会社や周囲に与えた影響を考えてみましょう。

復職すれば、もう独身時代とは違います。子育てをしていようが、与えられた条件の中で「仕事もしっかりできましよう」と、自身で証明していくしかないのです。わたしの周囲には、役職を一時的に落とされながら、出産経験で得た精神力で新事業をどんどん提案したり、社内環境を改善したりと、前向きに行動する人がたくさんいます。

子供がいる自分なりに、できることを積み重ねることが大切。わたしも妊娠を境に大好きな海外取材の話がブツツリなくなると落ちて込みました。でも振り返ると、そうした期間があったからこそ、仕事にも新たなテーマや視点、アイデアが生まれていったことに気がきます。

(編集プロダクション「あぐ」代表)

産後の不安



パワーアップ!



イラスト・山口晴代